

「藤織り伝承交流館、がオープンしました！」



5月9日、丹後藤織り保存会の活動拠点として、上世屋に『藤織り伝承交流館』が開館しました。

昨年25周年を迎えられた保存会の記念事業として廃校になっていた上世屋分校を宮津市から借り受け、昨秋より改修工事が行われました。屋根のトタン葺き替えや内部改装などすっかり見違える空間に生まれ変わりました。



① 藤織りを通じて会員相互・一般の方々との交流の場、② 製作活動ができる工房の場、③ 藤織りの歴史や工程・作品が見学できる場、④ 藤織りや上世屋について情報発信の場として今後活用が進められます。

当日は、「世屋・藤祭り」としてガイドである安田会員、永久会員、前野庄会員と一緒に歩く散策会、オープンセレモニー、餅と蕎麦のふるまいが行われました。保存会会員や上世屋住民を中心に80名ほどの参加があり賑やかに行われました。

見学希望の方は下記にお申し込み下さい。

○藤織り伝承交流館館長 井之本泰 (イノトキ) さん 電話・FAX 0772-27-1547

日置からの道中、最近やっと芽をふきだした木があります。それは・・・??



◎ネムノキ (マメ科) 合歓木、ネム、ネブ

ネムノキは、イラン・インドから東南アジアを経て、日本の東北地方北部まで広く分布し、日当たりのよい湿地や山に生える陽樹だといわれます。マメ科ですが、花はちょう形にはならず、まるで花火のように綺麗な花を咲かせます。このピンクの部分は雄しべの花糸で、1つの花にみえるところには、なんと10個以上もの花が集まっていて、花弁は小さく根元の方にあり、そこから30本くらいの雄しべがでて、花のようになっているのだそうです。



季節の便り

ネムノキの花は雄しべが先熟で、雄しべが枯れた後に、白い雌しべが姿を現してくるそうです。名前の由来は、鳥の羽に似た葉が、夜には、自然に閉じて木が眠ったように見えることから、ネムノキという名がついたといわれているようです。英名はシルク・ツリー (絹の樹木) といって、多数の雄しべを絹に見立てたもののようで、材は軽くて割れにくいので、かつぎ棒、鎌の柄、杭などに用いられたといわれます。(河嶋英一)

■□活動報告□■

【主催】2010年度総会が終了

日時:2010年4月29日(木・祝) 13時~15時 場所:ぶーたん 参加者:42名(会員数58名中)

これからの団体のあり方を見据えて

飯尾 毅 (理事長、宮津市在住)

4月29日の総会には多くの会員の皆様に出席していただき、貴重な意見を頂戴し、無事終了しました。私達のNPO法人里山ネットワーク世屋は設立後7年が過ぎましたが、**財政基盤の弱さ**は改善されることなく今日に至っております。総会で皆様の意見を聞かせていただくたびに、多くの方が、少しでもこの会にお金が落ちるよう腐心していただいているのがひしひしと伝わってまいります。①松尾で取れる米の販売、②世屋の野菜の販売、③ブータンの宿泊利用、④会員増強による会費収入増加など具体的な提案をいただいております。ただ、営利目的の事業をしますと税務署に申告しなければなりません。ある程度の利益が得られないと、労多くして益少なしで申告書の作成も含めて事務が大変になります。

提案いただいた中で納税義務のない収入を増やす方法は、**会員増強**だと思いますが、会員になっていただくには里山ネットワーク世屋が魅力的な事業や活動を行い、会員になってよかったと感じていただくことが第一だと考えます。読売新聞社主催の『日本の里地里山30』、朝日新聞社主催の『にほんの里100選』、京都オムロン地域協力基金『ヒューマンかざぐるま賞』など過去に多くの荣誉に輝いておりますが、その実績を広くPRできていないのも

事実です。皆さんからいろいろなご意見をいただいてPRすると同時に、**世屋の里山の魅力を知っていただく事業の提案**もどしどししていただきたいと思います。2年前にこのNPOの事業で菌を打ち込んだ原木から3月にはたくさん椎茸が生えてきました。肉厚でとても美味しく、個人的には再度事業に取り入れてほしいと考えています。どのスーパーでも売られているのは菌床椎茸ばかりで原木椎茸を見つけるのが困難です。味比べしても断然原木には勝てません。こんな単純な動機の提案でも結構ですので、是非よろしく願いいたします。

鳩山首相はNPO法人への寄付に対して半額を経費扱いにしたい旨を表明しております。今の税法でも認定NPO法人への寄付は全額経費扱いになっておりますが、認定NPO法人の資格を得るにはかなり高いハードルがあるようで、里山ネットワーク世屋ではクリアできそうにありません。鳩山首相がどこまで持ちこたえるか微妙な状況ですが、寄付する側から見ると嬉しい提案です。早期に実現されると同時に、寄付に値するNPO法人里山ネットワーク世屋でありたいものです。

会員増強のためパンフレット、入会申込書を同封させていただきます。ご紹介・勧誘にご協力お願いします。😊

【主催】紙漉きの里～畑集落の散策

日時:2010年4月29日(木・祝) 9時半~12時半 場所:世屋地区畑 案内人:井隼紀代男さん(畑)

参加者:会員7名、非会員1名

飯尾毅、奥谷三穂、永久徹、永久佳子、堀田雄次、丹羽建二、安田潤、松村文雄、磯田有美恵<順不同、敬称略>

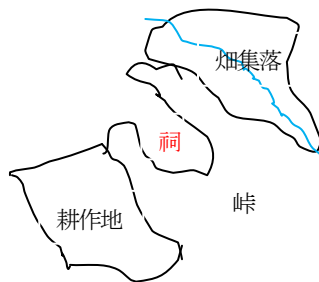
畑集落を歩いて

奥谷 三穂 (賛助会員、長岡京市在中)

とてもさわやかなGWの一日。地元の井隼さんのご案内

内で上世屋の約3km南にある畑集落を散策しました。谷あいには肩を寄せ合うようにして集落があり、中心を流れる川の端には、どの家にも**洗い場に降りる階段**が

設けられていました。かつては、野菜や衣類など大抵の洗い物はここでされていたそうです。



↑洗い場

←ミツマタ



こんにやくづくりの作業場を見た後、徒歩で30分くらい。小さな峠を越えると突然視界が開けて、美しい田畑が広がっていました。世屋にこんなに開けた所があるとは驚き。この広い田んぼを井隼さんはじめ畑集落の方3~4人で耕作されているそうで、皆さん田植えの準備に忙しそうでした。田んぼの向こうには栗田半島が見えて、ほんとに気持ちのいい景色です。井隼さんのこんにやく畑も芋植えの準備ができていて、ふかふかなおふとんのよう。こんにやく芋も大きく育ちそうです。峠の途中には小さな祠があって、火の神様が祀られていました。集落の人たちが、朝に夕に田んぼと家々を行き来されるのを見守っているかのようです。

畑集落は世帯数16軒、人口は28人ですが内65歳以上が23人と高齢率は8割を超えています。井隼さんは都会での勤めを終えられ故郷に戻って来られましたが、畑地区になんとか活気を取り戻したいと、紙漉きやこんにやくづくりなど昔から地域に伝わる暮らしの体験活動を進めてこられました。「本当は村の人らに弁当を作ってもらうつもりやったけど、忙しい時期でできなかった。この次はもっと楽しんでもらえるようにみんなで準備したい。」と意気込んでおられました。是非またみんなで来ますね。大変お世話になりました。

道中でミツマタを発見。かつて紙漉きの村だったことを思い起こさせます。さらにシュンランや綿毛をかぶったゼンマイ、ヤマフキやワサビ、めずらしいハナイカダなどもあり、植物に詳しい方の解説で、

しばし自然観察会を楽しみました。



